

3. ○○の考察 (センタリングする)

<原稿作成上の注意事項>

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
5 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 50
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
10 ○○○○○○○○○○○○○

- 45 1. 原稿の体裁
○原稿(審査用原稿)はワープロで作成し、A4用紙片面を用い、本文・図・表・写真をレイアウトすること。
○原稿のマージンは、上下30mm、左右20mmとする。
○本文は二段組みで、一行あたり22文字×43行とする。
○本文の読点は「,」、句点は「。」とし、いずれも全角とする。

4. おわりに

- 55 ○基本フォントは、和文フォントはMS明朝とし、アルファベットと数字はCenturyとする。
○投稿者の氏名、所属は、投稿時および審査途中には記入しないこと。採用が決定し、最終原稿の提出時に記入すること。
○以上の体裁に従って作成された書式の見本(MS-Word, PDF)が、学会ホームページに掲載されているので適宜利用されたい。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
15 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 60
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
20 ○○○○○○○○○○○○○

2. 図表の作成
○原稿は写真製版であり、刷り上がり時にはA4サイズからB5サイズに縮小される。図表の作成にあたっては、この縮小率を考慮し、文字や図、写真が鮮明に見えるように作成すること。

注
1) ここでの「生活」とは、○○○の意味で用いる。65
詳しくは小泉(1993:226)を参照。

25 引用・参考文献

- 1) 小泉浩郎「農村生活研究の新しい視角」川嶋良一監修・日本農村生活研究会編『農村生活研究の軌道と展望』筑波書房、1993年、225～231頁、226頁
30 2) 横沢三男・村野圭市「地域産業の活性化条件—八丈島の伝統的地場産業を中心として—」農村生活研究、第31巻第3号、1987年、19～25頁、2075～21頁
3) Yasuda, Saburo, A Methodological Inquiry into
35 Mobility, American Sociological Review 29, 1964:13-23

- 図表と本文の間は1行空け、中央揃えとすること。
○図表番号とタイトルはMSゴシック、10.5ptとする。図表の注は9pt。行間隔(改行幅)を0.75(3/4)まで詰めてもよい
○図表は1段内か、2段内に割り付ける。余白が生じて、そこには文章を記さないこと。

○引用文献の掲載順は、日本語、アルファベット80表記、その他の言語表記とする。各々筆頭著者の姓に基づいて、日本語表記では50音順、アルファベット表記ではアルファベット順、その他の言語の文献は、その国の言語ルール順で示す。

3. 謝辞
○謝辞を加える場合には、本文と補注・文献の間に記入すること。
○謝辞は投稿時には記入せず、スペースのみ確保し、採用決定後の最終原稿の提出時に記入すること。

40 (202*年*月*日 受理) 編集委員会が記入

4. 注および引用・参考文献
85 ○注および引用・参考文献のフォントサイズは10ptとする。